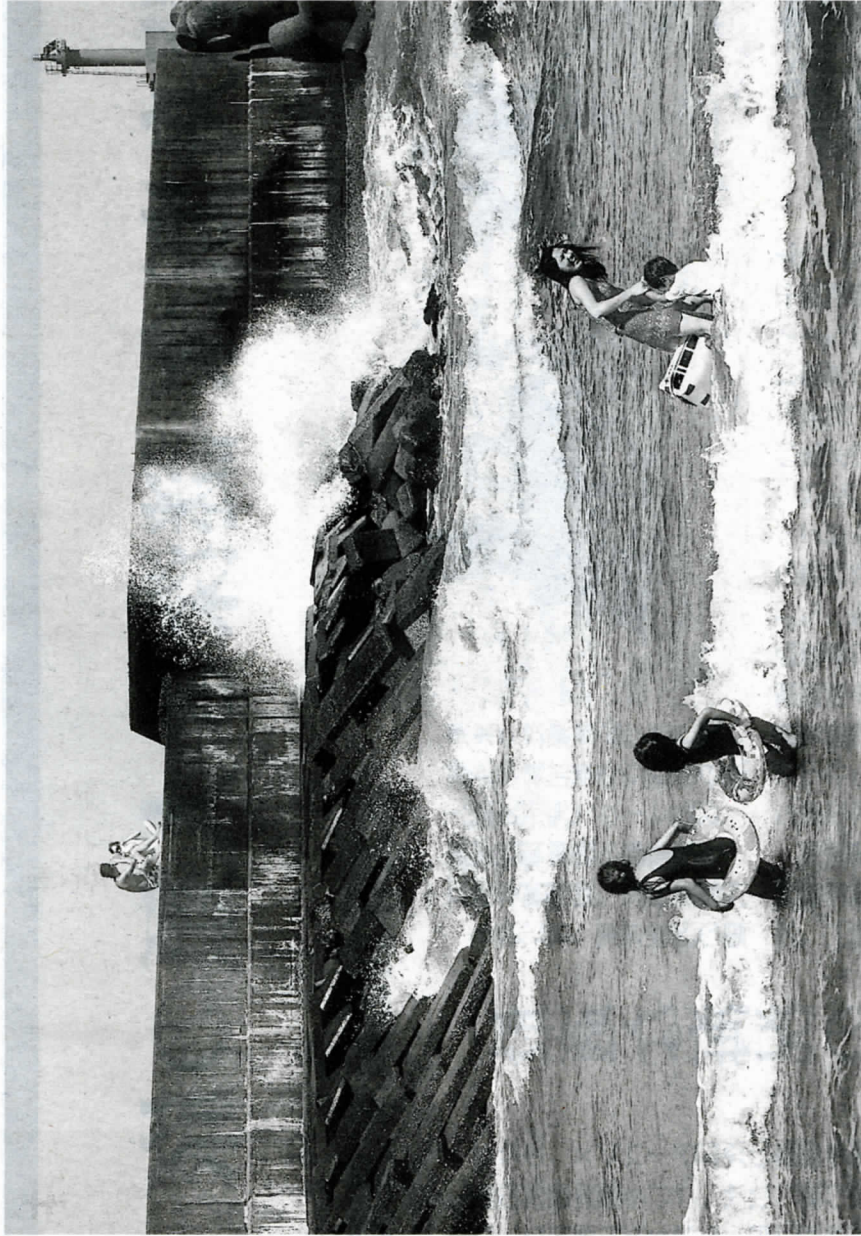


ストック効果で台風に備え

一写一筆

静岡の今

今年も台風シーズンの到来である。この夏、地球の裏側から「五輪旋風」、甲子園から高校球児たちの「熱風」を送り続けたテレビ画面に



波の高い日—防波堤が暮らしの安全を守っている
 〓吉田港内の海岸で、全日写連中村勝利さん撮影

は、日本列島に近づく台風の進路図が頻繁に登場している。

例年、台風の上陸は少ない北海道に1週間でも度も上陸したり、本州に近い海上で発生した大型台風がいったん沖縄方面に向かった後、ヒターンしたりと、異例の話題も多い。

気象庁の統計史上初めて太平洋側から東北地方に上陸した台風10号は、記録的な大雨を東北・北海道にもたらした。各地で河川が氾濫し、堤防が決壊するなど被害は深刻で、岩手の高齢者施設では9人が遺体で見つかった。

橋や道路など県内の社会資本は、災害からどのように守られているのか。県交通基盤部は今年2月、「土木のチカラ」と題した冊子で県内の社会資本整備の実情と重要性を「ストック効果」として説明している。

ストック効果は、災害が発生する前に社会資本を整備して、災害を未然に防いで地域に安心で便利な生活や活性化をもたらす効果のことである。

例えば、静岡市葵区の玉川地区の土砂災害防止対策では、蛇行する溪流の流れを変え、バイパス道路を整備し、その建設発生土で山間部に平らな土地を創出して企業を誘致し、地域活性化につなげた。湖西市上田町地区では山を削ってがけ崩れの危険をなくし、発生土で約千人収容できる「命山」の整備が進む。

立春から数えて二百十日目の9月1日ごろは、昔から台風がよく来るとされてきた。農家は「厄日」として警戒したが、今は防災の日になった。呼び名を変えても、台風はやって来る。ストック効果で備えるしかない。(前静岡県監査委員・高永久雄)